教育機関初 Microsoft Base 新設 独自 AI の開発も

本学は、教育機関初となるMicrosoft Baseを２０２４年に大阪いばらきキャンパス（ＯＩＣ）へ設置することを発表した。日本マイクロソフト株式会社との協定締結の一環で「ＤＸ人材育成」「スタートアップ創成支援」「新たな学びの創造」などの分野で連携する。Microsoft Baseでは、日本マイクロソフトが提供するクラウドプラットフォーム「Microsoft Azure」やマイクロソフト製品の活用を支援するスタッフが常駐するという。

今回の取り組みは、本学の中長期計画「学園ビジョンＲ２０３０」に基づくＯＩＣ新展開構想の一環。ＯＩＣ新展開では、学生や自治体、企業が集う新しい拠点を目指すだけでなく、誰もが挑戦できる場「TRY FIELD」を整備する。２０２４年の映像学部・同研究科と情報理工学部・同研究科のＯＩＣ移転を、単なる学部移転に終わらせたくないと語るのはＯＩＣ新展開企画課の古賀健治さん。Microsoft Baseの設置を通じて、本学独自のＡＩ「Ｒ－ＡＩ（仮称）」の開発のほか、自ら考えて動く「創発性人材」の育成に力を入れる考えだ。古賀さんは「学生が何かをたくらむ場として積極的に活用してほしい」と期待を寄せる。今後の展望として、ＯＩＣ新棟へ民間企業を誘致するなど、社会共創も拡大させていきたいという。ＯＩＣの拡張性に目を向ける同課の毛利（もうり）口広和さんは「失敗を恐れずに、いろんなことにためらわず挑戦してほしい。全力でサポートする」と学生にエールを送った。（小野）

Microsoft Base 完成イメージ
※イメージは変更の可能性があります

本学に宇宙地球探査研究センター（ESEC）設置

佐伯センター長（右側）と小林副センター長（左側）

７月１日、本学に宇宙地球探査研究センター（以下、ESEC）が設置された。ESECは、月や惑星における生存圏拡張、居住・生活圏構築に先駆けた探査拠点となる宇宙開発・インフラ構築に取り組む日本初の研究組織となる。

ESECの特徴は、宇宙開発の３つのフェーズのうち、第２フェーズを中核的に担う点にある。月や火星といった地球以外の環境へ降り立った探査を想定し、有人探査におけるベースキャンプの構築やそれらを機能・発展させるための宇宙資源の探査と利用技術（宇宙資源学）の確立、インフラ整備などが挙げられるとのこと。またESECは宇宙航空研究開発機構（JAXA）との協働関係のもと、小型月着陸実証機プロジェクト（SLIM）、月極域探査ミッション（LUPEX）といった研究にも携わっている。

さらにESECには、文系理系を問わずさまざまな学問の研究者が集まっている。小林泰三副センター長は「宇宙に興味を持った企業との情報交換の拠点として、宇宙研究を先導する存在を目指す」と語る。

最後に佐伯和人センター長は「これから宇宙を舞台に経済活動が始まろうとするなか、宇宙ではさまざまな職業・分野が関係していくことになる。宇宙は近い将来、自分とも関わるものだと思って、考えを巡らせてほしい」と学生にメッセージを送った。（稲垣、小野）

Phase 1
「発見型」の宇宙探査
- 宇宙機からの観測
- ロケット
- 人工衛星などの開発

ESEC が取り組む領域

Phase 2
探査の展開・生存圏の構築
- 生活圏構築に向けたインフラ整備
- 新たな着陸技術
- 資源開発 / 有人探査など

ここにフォーカスを当てた研究組織は日本初

Phase 3
生活圏の構築・充実化
（宇宙における都市開発）
- 居住、産業化を見据えた環境整備
- 長期滞在に向けた衣食住研究など

学園祭テーマロゴ決定 無限の発想力を

立命館大学学園祭実行委員会は、８月23日に２０２３年度立命館大学学園祭のテーマロゴを発表した。本年度は、宮下美虹さん（映像２）発案のロゴに決定した。

本年度の学園祭のテーマは「Unlimited!」。宮下さんはこのテーマから着想を得て、ロゴに無限の発想力というメッセージを込めた。テーマロゴに応募しようと考えた理由について宮下さんは「自分が所属している映像学部自治会の先輩に誘われたから。絵を描くことは趣味なので、軽い気持ちで参加した」と説明し、テーマロゴに選ばれた気持ちを「とても驚いた。これまでの学園祭のテーマロゴはシンプルなものが多かったため、複雑でアートチックな自分のロゴが選ばれたことで学びにもなった」と明かした。

また本年度の学園祭について宮下さんは「４年ぶりにコロナ禍による制限がないなかでの開催となる。学生にはさまざまな制限に発想力を奪われてもどかしい思いをせず、やりたいことをやってほしい」と語った。

今後、テーマロゴは総合パンフレットなどの学園祭当日の配布物や看板での宣伝に使用される。（森島）

本年度学園祭のテーマロゴが決定した

衣笠祭典	11月19日
OIC祭典	12月3日
BKC祭典	12月10日

2023年度学園祭開催決定

立命館大学学園祭実行委員会は２０２３年度立命館大学学園祭の開催を発表した。幕開けとなる11月19日よりそれぞれのキャンパスで開催予定だ。

開催発表に合わせて学園祭のテーマが公開。新型コロナウイルス感染症の感染拡大を理由にした制限が減少しつつある背景を踏まえ、コロナ禍を乗り越えた学園祭を目指す「Unlimited!」に決定した。２０１９年度以降初めて、３キャンパスでの入場制限が撤廃される。

学園祭実行委員長の戸川湧太さん（文４）は「コロナ禍以前までの盛り上がりの復活と、禍中の開催で創造された新たな祭典の形、この二つを追求する本年度にふさわしいテーマ」と紹介。11月に迫る開催に向けて「学生が思う存分、堂々と活躍する姿が見られる。期待を胸にぜひ足を運んでほしい」と来場を熱く呼び掛けている。（奥野）

立命館大学新聞

発行所 立命館大学新聞社
発行人 奥野 泰生
〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1 立命館大学学生会館 BOX316
075-465-8253（内線 2160）
〒525-8577 滋賀県草津市野路東 1-1-1 立命館大学セントラルアーク 4F
〒567-8570 大阪府茨木市岩倉町 2-150 立命館大学 A 棟北ウィング（AN）3F Student Lounge 内
email:info@ritsumeikanunivpress.com

立命館大学新聞社 RITSUMEIKAN UNIV PRESS
www.ritsumeikanunivpress.com
立命館大学新聞社 検索
TEL 075-465-8253
MAIL info@ritsumeikanunivpress.com
Twitter @Rits_Press
Facebook www.facebook.com/ritspress/

9・10月合併号

本号の紙面

宇宙地球研究組織 設立…1面
秋季卒業式 挙行…2面
応援団吹奏楽部 全国へ…3面
若者に広まる 薬物汚染…4面

海神

私の地元は港町である。高校は船の汽笛が聞こえるほど海が近い。そんな懐かしき故郷に、私は1年半ぶりに帰省した。長距離バスに揺られ近づいてくる見知った風景は少しづつ変化している。昔からお使いに行っていたスーパーは全国チェーンのドラッグストアになっており、通学路のそろばん教室は空き地になっている。しかし変化していくのは、街並みだけではない▼久しぶりに会った母親はどことなくやつれているようだ。母親は多くの仕事をしており、私が帰省している間も午前5時に起床し午後11時前後に帰宅していた。そんな中でも母親は、私が好きだった手料理を作ってくれたり、合間を縫ってドライブに連れて行ってくれたりした。そんな母親の優しさに触れるたび、何の責任もなく遊んでいた毎日が当たり前でなかったことを自覚する。戻らない日々への寂しさばかりが付き纏（まと）う。母親自身も、仕事を掛け持たなければならないほど厳しい状況だ。今後、母親はどうなっていくのだろう。このままどれだけ仕事をしても、地元で大きく生活が好転することはないだろう。今までは自分のことばかりで、母親の幸せなど考えたこともなかった。そのため、帰省した途端そんな考えばかりが浮かぶ自分に困惑したまま、故郷を後にした▼この帰省で母親が最後に連れて行ってくれたのは、港町らしく海である。この言いようもない悲しみも、いつかは川へ流れ出て大海を形成する一雫（しずく）となるのだろうか。

内定獲得の決め手は“さわやかな笑顔”！

人は見た目が9割!?
ホームホワイトニングでポイントUP!
ホームホワイトニングの特徴
お気軽にご相談ください！
- 自宅で手軽に行える
- 歯列全体に使える
- 通院回数が少ない

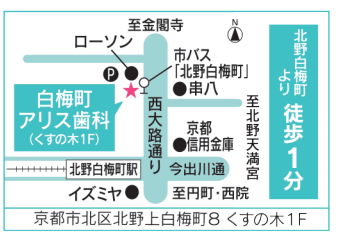
歯の変色や歯茎の黒ずみが気になる方
審美歯科
希望に応じて様々な治療法をご提案

すきっ歯など歯並びをきれいにしたい方
歯列矯正
カウンセリング無料！即日見積もり

前歯を治療するだけでも、印象はグッと変わります！
面接試験での好印象のポイントは、①清潔感②ハキハキとした受け答え③明るい笑顔。「歯の黄ばみ」「歯茎の黒ずみ」「虫歯の治療痕」などを気にして、無意識に口元を隠すような仕草は、面接官に自信なさげな印象を与えてしまいます。社会人になると、なにかと忙しくなるのもあり、ぜひこの機会に治療して、白い歯&きれいな口元を手に入れましょう。

海外では歯並びが悪いことが、マイナスイメージに
国際的に活躍したい人には、矯正治療がおすすめ。欧米では歯並びを整えることは、大切なマナーでもあり、面接時のチェックポイントにする企業も増えているとか…。グローバル化が進む中、きれいな歯並びは一生の財産になります。歯の裏側に付ける目立たない矯正装置もありますので、お気軽にご相談ください。

大阪大学歯科部医師チームによる最先端の治療 歯の黄ばみ 歯茎の黒ずみ すきっ歯 ガチャ歯



京都市北区北野上白梅町8 くすの木1F

白梅町アリス歯科医院
アリステンタルクリニック グループ 京都（四条大宮・白梅町）東京・名古屋
まずは気軽にご相談ください
075-462-8211
無料カウンセリング 受付中
http://www.alicedental.jp/

秋学期新入生に向けて Autumn Welcome Festival 開催

9月26日から29日にかけ、Autumn Welcome Festivalが衣笠キャンパス・大阪いばらきキャンパスにて開催された。

Autumn Welcome Festivalとは、秋学期新入生向けの新歓活動で、有志の団体がブースを設置し新入生に各団体の説明を行うものである。例年はグローバル化推進室が秋の新歓活動を行っていたが、本年度は新歓実行委員会も協力し規模を拡大。秋学期新入生には英語基準学生が多いため、英語でのサポートを春学期のウェルカムフェスティバルより強化した形での開催となった。新歓実行委員会はグローバル化推進室と協力し、Autumn Welcome Festival当日は各ブースの英語対応補助などを行った。また、春学期に行った新歓運動のアンケートでは、サークルに入りたかったが時期を逃したと感じている学生が回答者全体の約15％に達しており、そうした学生への一助にもなる活動となった。

新歓実行委員長の横尾陽太さん（法3）は「英語基準学生はサークル情報を手に入れにくく、疎外感を感じている学生もいただろう。本年度はAutumn Welcome Festivalを活用して、日本の大学生活をより楽しんでもらえたらうれしい」と英語基準学生をサポートする姿勢を見せた。（三好）

ブース説明でにぎわっていたAutumn Welcome Festival

社説　関東大震災から100年　災害への備えを

今年で関東大震災から100年が経つ。1923年9月1日、近代日本の首都圏に甚大な被害をもたらした大規模地震の発生日は、災害への認識を深め、備えを点検する「防災の日」と定められている。この100年で日本は、1995年の阪神・淡路大震災、2011年の東日本大震災といった地震・震災をはじめとして、豪雨や台風、土砂崩れなど数多くの災害を経験してきた。気候変動などによって自然災害のリスクが高まるなか、これらの災害はいつどこで起きてもおかしくない。

では、現在の私たちはこのような災害リスクに対して十分な備えをできているのだろうか。今年、政府が報告した防災白書によると、東日本大震災で高まった国民の防災意識が現在、低下傾向にあることが分かった。災害に対して「準備無し」と回答した人は2017年から2022年にかけて3％増加し、約13％を記録。さらに、災害時の対処について家族ら身近な人と話したことがない人は回答者全体の約37％に上っており、防災対策を怠っている人が一定数存在する。

特に、下宿先で一人暮らしをする多くの大学生にとって、防災対策は後回しになりがちかもしれない。だが、頼れる家族・知人が身近にいない状況では、自分の身を自分で守る行動が大切になる。電気や水道などのライフラインが止まった場合に備えて、飲料水や保存の効く食料、タオルなどの生活必需品を備蓄すること、家族・友人らと安否確認の方法を決めておくこと、自治体のハザードマップや防災マップを通して避難場所・経路を確認しておくことなど、日頃からの備えが重要だ。

私たちは常に災害のリスクにさらされている。いつどこで起こるか分からないからこそ、日頃の備えを徹底してリスクを最小化する。自然災害のリスクが高まるなか、万一のとき、自分の命を自分で守るための責任感と行動が今後より一層求められるのではないか。過去の教訓を未来の防災に生かしていきたい。

OICから文化を発信「Asia Week 2023」開催

Asia Week 2022「分林記念館」の様子

10月22日に大阪いばらきキャンパス（OIC）にて国際交流フェスタ「Asia Week 2023」が開催される。OICの教学コンセプトの一つである「アジアのゲートウェイ」を具現化する地域交流イベントとして、国際交流・異文化理解、教育・研究の発表、文化・芸術の振興の三つの柱をテーマに行われる。

今回で8回目の開催となる本イベント。近年は新型コロナウイルス感染症の影響によりオンライン開催や人数を制限しての開催を余儀なくされてきた。今年はコロナ禍が終息しつつあるなかで、初めて制限のない状態での開催となることから、より多くの来場者が見込まれるという。

OIC地域連携課の飛与田唯子さんは「本イベントが学生の学びや成長につながる機会となるように準備を進めている。国際交流を通して、互いに学んでいってほしい」と話す。

イベント当日だけでなく、16日から21日の1週間はキャンパス内で学生主催の常設展示企画を予定している。留学生支援団体TISAやBBP、natuRableといった国際交流を主要とする活動を行う学生団体、ゼミによる出展に加え、ゼミと企業がコラボした企画もあるという。このようなイベントを通して、学生が地域や企業、教職員と一緒になって取り組める機会の提供に努めている。

飛与田さんは「OICは門も塀もない誰でもウェルカムなキャンパス。地域住民ともつながりやすい環境になっている。国籍を問わず、さまざまな人とつながり、新しいことに一歩踏み出すきっかけになるようなイベントになってほしい」と意気込みを語った。（西澤）

Asia Week 2022「アドベンチャーワールド」の様子

国際平和ミュージアム　3年ぶりリニューアルオープン

9月23日、立命館大学国際平和ミュージアムが2021年4月の休館以来、3年ぶりにリニューアルオープンした。開館に際して、本学では8月5日と26日に土曜講座が開催され、リニューアルに携わった教員・スタッフらがその思いや新展示の見どころを語った。

立命館大学国際平和ミュージアムは1992年に衣笠で開館。戦後、京都市民によって開催されていた「平和のための京都の戦争展」と本学の教学理念「平和と民主主義」が結び付き、世界初の「大学立の総合的平和博物館」として創設されたという。今回のリニューアルは2005年の第一期リニューアルに続く第二期であり、国内外の情勢変化を踏まえて館内設備や展示が一新された。

館内は3階に分かれており、地階に常設展示、1階に企画展示室や無言館京都館「いのちの画室（アトリエ）」、エントランスホール、2階に国際平和メディア資料室やピースコモンズなどが設置されている。今回のリニューアルでは、地階につながる階段の段差をなだらかにしたり、救護室・授乳室を新たに備えたりと、誰もが安心して来館できるユニバーサルデザインが導入された。

また、地階の常設展示には、全長約70mに及ぶ年表展示や各テーマについて深い理解を促すためのテーマ展示、来館者同士で感想を共有できる「問いかけひろば」を設置。年表の内容はリニューアルを通して増幅され、1840年のアヘン戦争から2021年のミャンマーでのクーデターまで、約180年間の国内外の歴史について記されている。さらに、本学経済学部准教授で本ミュージアムの副館長を務める細谷亨（ほそやとおる）先生は、常設展示の見どころの一つとして個人の体験談を豊富に展示したといい「来館者が『その時代、自分ならどうするか』と、平和を自分事として捉えられるようにしたと意図を語る。

国際平和ミュージアムオフィスは「新しくなったミュージアムにお越しいただき、その真価について一緒に考えてほしい」とした。

全長約70mの年表展示

来館者同士で感想を共有できる「問いかけひろば」

秋季卒業式　大学院学位授与式

2023年度秋季立命館大学卒業式・大学院学位授与式が9月23日、大阪いばらきキャンパスで行われた。秋季の式典では423名の学部生、131名の大学院生が卒業と修了を迎えた。当日は卒業生・修了生の家族も式典へ出席し、会場では共に喜びを分かち合う姿が見られた。

式辞では仲谷善雄総長が登壇し「前を向いて次なる一歩に踏み出す時期が来ている」と激励。また、本学の中長期計画「学園ビジョンR2030」が掲げる「Futurize. きみの意志が、未来。」を紹介し「社会が抱える課題に向き合い課題の解決に積極的に貢献して、新しい社会の創造を牽引（けん）する存在になってほしい」とエールを送った。

式典終了後、キャンパス内の広場では卒業生・修了生が思い思いの時間を過ごしていた。文学部を卒業した橋秀俊さんは大学生活を振り返り「率直に楽しかった。授業はコロナ禍の影響で遠隔授業になってしまったがそれも一つの思い出」とし、今後は在学中に取得した資格を生かした仕事に就く。また在学生に向けて「大学にはいろいろな選択肢がある。自分のしたいことを見つけられるように知識を広げていってほしい」と語った。

笑顔で卒業を迎えた橋さん

登壇する仲谷総長

応援団吹奏楽部 13年ぶりの全国大会出場

8月19日、守山市民ホール（滋賀県守山市）で開催された関西吹奏楽コンクール（以下、関西大会）にて本学応援団吹奏楽部が金賞を受賞した。関西大会において本学応援団吹奏楽部が金賞を受賞するのは直近6大会連続。今大会では金賞に加え13年ぶりとなる念願の関西代表の座を勝ち取り、10月28日に宇都宮市文化会館（栃木県宇都宮市）で行われる全日本吹奏楽コンクール（以下、全国大会）への出場権を得た。

部長の都築芙実さん

全国大会出場を逃した2年前と同じく『メトロポリス1927』を自由曲として選び挑んだ今大会。本年度の部員の明るく生き生きとした雰囲気が曲調と合っていること、2年前にソロパートを担当した部員の多くが本年度に最高学年を迎えることから、自然と「この曲で大会に挑む」という気持ちが部員の中で固まり選曲に至った。部長の都築芙実さん（文4）は「2年前のリベンジが果たせて良かった」と笑顔で振り返る。

加えて「長期的なスケジュールを立て、時間と気持ちに余裕を持って大会に臨めたことが関西大会1位という結果につながった」と都築さんは語る。過密な計画により不安が残るまま大会を迎えた昨年の反省を生かし、今年は例年より早期から大会に向けた練習を開始。細部までこだわり抜いた演奏ができた本番では、演奏後に涙を流す部員もいたという。

全国大会に関して都築さんは、関西の看板を背負って大会に出場するからには金賞を目指すと述べた上で「審査員の心に響く音楽を宇都宮のホールに響かせることを一番の目標としたい」と意気込んだ。（吉江）

演奏後、笑顔を見せる本学応援団吹奏楽部

鳥人間コンテスト 飛行機研究会RAPT チーム記録大幅更新

フライト中 声援を送るRAPTの皆さん

7月29日と30日、琵琶湖東岸（滋賀県彦根市）にて鳥人間コンテストが開催された。同大会の人力プロペラ機部門に出場した本学飛行機研究会RAPT（以下、RAPT）はチーム最長記録の254・53mを大幅に更新する1683・24mを記録した。

4年ぶりの出場となった今大会、RAPTは駆動構造を一新。プロペラを機体の前方に付けるダイダロス駆動から、主翼と尾翼の間に付ける中ペラ駆動へと移行。機体名は、新たな機体へ移行した今期がこれまでとこれからの機体の架け橋となり、RAPT新時代の第一走者として後輩たちに襷（たすき）をつなぐという思いを込めて襷を意味するSASHに。SASHは29日、今大会の1番機としてプラットホームから飛び立ち、目標として掲げていた1km到達を見事達成。何度か水面へと近づいたものの、踏ん張り、1年で機体の形を変えたチームの粘り強さを見せた。

代表の植田晃一さん（理工3）は「やり切った気持ちを部員一人ひとりが持てたことが一番良かった」と1年間を振り返った。またSASHという機体名を踏まえて、これまでチームが培ってきた経験や技術を実らせることができたと語る。中ペラ機移行の提案者でもあり、全体設計を担当した梶島基暉さん（理工3）は「機体が破損することなく、パイロットを安全に送り出せたことは良かった」とし、データも設計通りだったと安堵（あんど）の色を見せた。パイロットの大石智也さん（理工2）はチーム目標であった1kmを越えることができて安心したとしつつも「もっと飛びたかった」と悔しさも見せた。そして来年については「今回見つけた課題を生かしてもっといい機体を作り、さらなる記録更新を目指していきたい」と意気込む。

今大会の1番機となったSASH

今大会を引退する植田さんと梶島さんは「SASHを超えて、5km、10kmと記録を出してくれたらうれしい」と、この夏また新たに走り出した次世代のRAPTを担う後輩たちへ期待を寄せた。（井本）

フットサル同好会 All.1 新体制で日本一の組織目指す

今年3月に行われた地域大学フットサルチャンピオンズリーグで日本一に輝き、8月に行われた「全日本大学フットサル大会」でも全国3位を獲得するなど、目覚ましい活躍を見せる本学体育会フットサル同好会All.1。チームスローガンにかける思い、今後の意気込みについて代表を務める行成海人さん（経済3）に聞いた。

新体制となったAll.1

All.1のチームスローガンは「想いを繋げ」。スローガンにはこれまで受け継がれてきた全日本大学フットサル大会優勝という目標が込められている。スローガンの解釈について行成さんは「OBの方々の思いをつなぐことに加え、支えてくれる人たちの応援に自分たちのプレーで応えていく必要もある」と語る。

8月に行われた全日本大学フットサル大会での優勝はAll.1の目標の一つ。3位で終了した試合結果を明確な力の差であったと冷静に分析し「現状の結果に満足せず進化し続ける必要があることを再認識するきっかけになった」という。

新体制で全日本大学フットサル大会優勝を目指す

8月の大会を終えてAll.1は新体制に移行した。新チームでは、競技・運営の二つの面から「日本一の組織」を目指す。日本一の組織を目指す上で行成さんは積極的なミーティングの実施を意識しているという。練習内容ごとに選手同士で振り返る即興的なミーティングに加え、チームが目指すべき目標を共有するための全体ミーティングでは「選手たち自身がどういう場所に所属しているのか、どのような意図を持ってAll.1という組織に入ったのか、ということを再認識できる」とその重要性を語る。

結成したばかりの新チームについて行成さんは「まだチームとしてまとまっているとは言えない」としており11月に開催予定の全日本フットサル選手権大会の県内予選に向け「チームがいい方向に向かうように練習に励んでいきたい」と、新体制での活動へ意気込みを見せている。行成さんは「練習できているのは多くの人の支えや応援があるから。立命館大学という名前を背負い素晴らしい成績を残せるように頑張っていきたい」と決意を語った。（篠原）

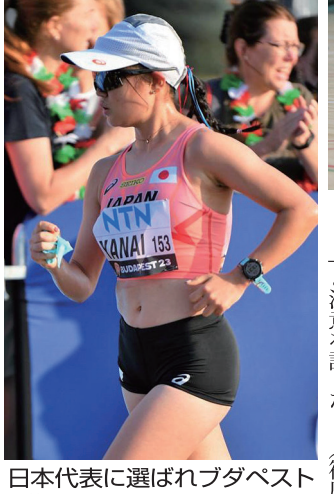
日本女子競歩界の新星 柳井綾音選手インタビュー

日本女子競歩界でトップクラスの成績を残している期待の星は、駅伝と競歩の二刀流に挑戦している。本学女子陸上競技部の柳井綾音さん（食マネ2）は全日本大学女子駅伝と富士山女子駅伝に出場するなど、チームに欠かすことのできない存在となっている。一方で、今年6月の1万m競歩では日本学生記録を樹立。さらに日本代表に選出され、8月には20km競歩で世界選手権に初出場した。柳井さんはインタビューに応じ「競歩はかけがえのない存在」と競技への愛情を示すとともに、今後の飛躍に向け決意を語った。

順天堂大学競技会で13年ぶりに日本学生記録を更新した

幼少期から陸上を始め、将来は立命館大学に進学し駅伝で活躍することを思い描いていたという。その後、陸上の名門である北九州市立高校に進学した。中学時代は長距離専門の選手だったが、当時の荻原知紀監督が競歩の適性を見いだし、競歩を始めた。当初はよくわからない競技だったと話すが、競歩を本格的に始めてから急速に力を付け、全国高校総体の5000m競歩で優勝した。さらに全国高校駅伝でも2年連続で都大路を走るなど、二刀流で活躍を見せた。

大学に進学してからは、昨年8月、コロンビアでのU20世界選手権にて1万m競歩で銅メダルを獲得。さらに今年は日本学生記録樹立やハンガリーで行われた世界選手権に出場するなど、大活躍をしている。その理由として小さな目標を立て、それがうまくいっていることが要因だと話す。



日本代表に選ばれブダペスト世界陸上に出場を果たした

今後の目標として来年のパリ五輪出場を掲げている。パリ五輪から35km競歩に代わって42.195kmの男女混合リレーが行われる。柳井さんが得意としている20km競歩は唯一の個人種目となるため、実力のある選手が集中することが予想されている。五輪出場に向けては「他の選手とは違い、駅伝の練習で体力を鍛えることができる。それを強みにして絶対に出場する」とさらなる高みを目指す。（井上）

衣笠のジャズ喫茶リニューアルへ

衣笠キャンパス敬学館の西向かいに9月25日「スウィングキッチンＹｏｕｒ」（京都市右京区）がオープンした。昨年まで半世紀にわたり営業し、惜しまれつつも閉業した「Ｊａｚｚ喫茶Ｙｏｕｒ」がリニューアルオープンした形。再始動プロジェクトは常連客を中心とする賛同者からの出資金やクラウドファンディングによる３００万円を超える支援を受け、準備が進められてきた。

「Ｊａｚｚ喫茶Ｙｏｕｒ」は１９７４年、ジャズが好きだった小塚剛正さんが開店した。本学の学生や教職員、地域の人々でにぎわったが、昨年７月に小塚さんが急逝。昨年９月に閉店を余儀なくされた。

小塚さんと店を切り盛りしていた妻の久枝さんは「この場所がこのまま失われてほしくはない」と常連客に語ったという。常連客らは久枝さんの「どうにかしてこの空間を守ることができないか」という思いに賛同し、再始動に向けて動き出した。

３月下旬から常連客に出資が呼び掛けられ、５月下旬から８月上旬にかけてはクラウドファンディングも実施された。最終的に３４５万円の支援が寄せられ、玄関部分やトイレの改装費用、当面の運転資金などに充てられる。

新たな「Ｙｏｕｒ」はシェアキッチンの形でリニューアルされた。開店以降、月曜から水曜のランチは沖縄料理、木曜は隔週で天然酵母パン、金曜は月１回おばんざいを出す店が決まり、週末も徐々に出店が決まりつつある。再始動プロジェクトのメンバーは、学生や教職員、地域の人々によるイベントや出店企画などの利用に期待を寄せており、相談は店内やインスタグラムなどで受け付けているという。

再始動プロジェクトに家主として伴走する久枝さんは「『Ｙｏｕｒ』は教職員と学生とが直接会ってフラットに対話できる場だ。以前のような出会いの場にしてほしい」と思いを語った。

衣笠キャンパス付近にある「Ｙｏｕｒ」

革新的授業 AIロボットを活用した国際交流

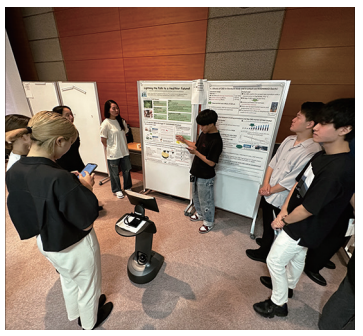
◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

本学の正課英語プログラムであるＰＥＰの一環として、自律走行型ＡＩロボット「ｔｅｍｉ」を活用したオンライン国際交流を行う授業が実施された。生命科学部・薬学部で開講されている３回生向け必修科目「Junior Project 1（ＪＰ１）」で、本学の学生約６００人とカリフォルニア大学デービス校（ＵＣデービス）の学生らが参加したという。

本学は「スーパーグローバル大学創成支援（ＳＧＵ）」事業に採択されており、今回の取り組みはコロナ禍で落ち込んだ国際交流を推進したい本学国際課の呼び掛けにＰＥＰが応えた形だ。ＪＰ１では、学生らがグループで学部専門の内容へ取り組むプロジェクトがあり、その内容をまとめたポスターを、学部の専門教員と英語教員のタッグで評価するセッションがある。今回は、このポスターセッションに「ｔｅｍｉ」を通じてＵＣデービスの学生がオンラインで参加し、発表者の学生と質疑応答を交わすなど活発な交流が行われた。

コロナ禍ではオンライン化や規模を縮小しての実施を余儀なくされたこの授業。４年ぶりの大規模開催となる今回は、当日までにさまざまな困難があったという。「ｔｅｍｉ」の準備を含め、ＢＫＣ国際課や本学と提携する株式会社ＮＴＴドコモの協力があって実現した今回の取り組み。ＰＥＰを担当する生命科学部の山中司教授は「たくさんの人を巻き込んでいける確信が持てた。今後は機器操作の環境やカリキュラムの改善に取り組んでいきたい」とさらなるアップデートに意欲を示した。同じくＰＥＰを担当する生命科学部の木村修平教授は「会場は異様な盛り上がりで感動した。学部の専門教員からのフィードバックも好意的だ」と当日の様子を振り返る。

ＳＧＵの対象期間は２０２３年度まで。学内のＤＸピッチ予算も本年度で終了するなど予算確保に新たな課題も浮上した。木村教授は「今回の取り組みにとどまらず、今後も新しいことに学生のために挑戦し続けたい」と展望を語った。


「ｔｅｍｉ」は聴衆の１人として会場を動き回った

最低賃金引き上げ 10月から施行

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

滋賀県と大阪府では10月１日から、京都府では６日から最低賃金が引き上げられた。今回の改定により、滋賀県と京都府では40円上がって９６７円と１００８円。大阪府では41円上がって１０６４円となった。

地域別最低賃金額改定にあたり、中央最低賃金審議会にて引き上げ額の目安が各都道府県の経済状況に応じた３つのランクで示される。大阪府を含むＡランクでは41円が、滋賀県と京都府を含むＢランクでは40円が、Ｃランクでは39円が目安とされた。京都労働局労働基準部賃金室室長補佐の林田出夫さんによると、京都府が目安通りに最低賃金を引き上げた背景には「実質賃金の目減り分を本年度は補填する」という意味があったという。

最低賃金引き上げを巡って雇用環境・均等室室長補佐の本間徹さんは「どんなに周知活動を行っても使用者が最低賃金の引き上げを知らないことが時々ある」とし「各都府県の施行日からの給料を確認し、疑問が残る場合はまず使用者に聞いてほしい」と注意喚起した。

本間さんは最低賃金に関する問題以外には「希望したシフトとは違う日に強制的にシフトを入れられた、有給休暇を消化してから辞めたいと申し出たところその日付で辞めさせられて有給休暇を使うことができなかった」などの相談が多いと話す。これらのトラブルに巻き込まれないためにも「まずは労働者側も使用者側も最低賃金や基本的な法律などの知識を持っておいてほしい」と林さんは呼び掛ける。そして、法律の確認や相談は「総合労働相談コーナー」へ問い合わせてほしいという。

（井本、大池）

10月以降の最低賃金

大阪	1,023円→1,064円
京都	968円→1,008円
滋賀	927円→967円

大阪府、滋賀県は１日施行
京都府は６日施行となる

若者に広がる 薬物汚染

薬物汚染が拡大している。全国的に若者を中心に大麻事犯の検挙数が増加しており、京都府警は警戒を強めている。

京都府警本部組織犯罪対策第三課の林祐彰（ひろあき）警部によると、昨年京都府内の大麻事犯の検挙人員は過去最多となる１５９人を記録した。今年８月末までの大麻事犯の検挙人員は１３４人に上り、うち10代・20代の割合は７割を超える。林警部は大学生の薬物使用にも言及し「大学生の間で大麻がまん延しているという感覚はある」と話した。

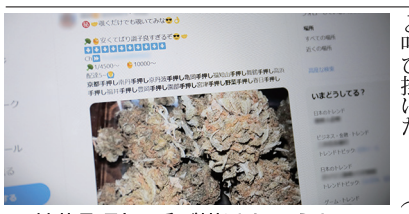
所持が規制されている乾燥大麻

大麻が拡大する要因について、林警部は「大麻は安全だ」という誤った情報の拡大を挙げ「大麻使用のハードルが低くなっている」と指摘する。大麻の使用は陶酔感をもたらす一方、幻覚、妄想などの副作用を引き起こすという。林警部は誤情報の拡大に警鐘を鳴らし「違法薬物が体にいいはずがない」と訴えた。

近年の薬物取引でＸ（旧ツイッター）などのＳＮＳが多用されていることも、若者への薬物汚染の拡大の要因だという。こうした動向を受け、京都府警は対策に乗り出しており、林警部は「今後もＳＮＳに対する対策は行っていかなければならない」と話した。

京都府警では「違法薬物１１０番」という取り組みを行っている。違法薬物に関する相談を匿名でも受け付けているといい、林警部は「気軽に相談してほしい」と語る。最後に林警部は「違法薬物の使用は周りを不幸にする。誰が悲しむかよく考えたら手を出さないはずだ。違法薬物を使ったらどうなるか、デメリットをしっかりと考えてほしい」と呼び掛けた。

（小林）



薬物取引の呼び掛けとみられるＳＮＳの投稿

たくさんの人に伝えたい感動や興奮。
共有したい情報や想い。
それらを表現できるのはたった一枚の紙の上。
限られた範囲で何ができるか。
記事の構成、写真のアングル、
紙面のデザイン、見出しの付け方。
伝えたいから、全てにこだわる。
こだわるから、良いものが生まれる。
私たちにしかできないことが、ここにある。

www.ritsumeikanunivpress.com
075-465-8253
info@ritsumeikanunivpress.com
@Rits_Press
www.facebook.com/ritspress/
立命館大学新聞社
RITSUMEIKAN UNIV PRESS